

## 台湾黄麻に関する研究

## 1. 採織量について

上原 勉

九州農業試験場

UEHARA, T. Studies on Taiwan Jute

## I. On te Fiber-production

戦前わが国において栽培されていた黄麻は良質でしかも採織量の多い台湾黄麻で占められ、従つてこれが種子も台湾からの移入に依存していた。しかるに戦後台湾よりの種子輸入が杜絶したため、やむなく本邦在来種の淡紅皮種、青皮種がこれに代つて栽培され、一方優良系統品種の選出に努力されるに至つた。幸に1951~1952年台湾産 *Corchorus capsularis*, L. 系永靖秋仔、永靖青皮、青皮3号、白胭脂、永靖白露台中1号、ハルマヘラ5号、台中特1号の8品種と *C. olitoris*, L. 系、チンスロブリーの計9品種を導入したので、これが試作を行つたその成績概要を茲に報告し黄麻栽培の資料に供したい。

## 試験方法

1) 特性調査: 上記品種を1952年4月24日に播種し、各品種10本当りの開花始、収穫日、草丈、分枝迄の長さ、1株当りの粗織維重について調査した。

2) 収穫時期: 収穫時期と採織量との関係を知るため上記の品種を1953年5月1日に播種し、生育期間90日、100日、110日、120日、130日に分け刈り採織量を調査した。(1区1.5坪の3区制)

3) 播種期試験: 播種期と採織量との関係を知るため1953年4月9日、24日、5月9日、24日、6月12日、19日の6回に分けて播種し、適期収穫を行い、採織量の調査を行つた。(1区面積1.5坪の3区制) 本試験においては、栽培密度2.0尺×4寸とし、反当り施肥量は堆肥300貫、硫酸8貫(基肥2貫、追肥6貫) 過石5貫及び硫酸2貫はいずれも基肥に施した。

## 試験成績

1. 特性調査: 調査結果の概要を示せば次の如くである。

第1表 特性調査

品 種	開花始		収穫日		草 丈		分枝迄の長さ	1株当粗織維重
	月 日	月 日	月 日	月 日	cm	cm		
淡紅皮種	7.24	8.10	8.10	8.25	126.8	79.8	14.3	
永靖秋仔	8.10	8.25	8.10	8.25	189.0	139.0	19.3	
永靖青皮	8.12	9.1	8.12	9.1	198.8	121.0	28.6	
青皮3号	8.13	9.1	8.13	9.1	195.3	151.3	29.6	
白胭脂	8.15	9.1	8.15	9.1	183.3	148.0	24.0	
永靖白露	8.14	9.1	8.14	9.1	175.3	124.3	23.7	
台中一號	8.19	9.7	8.19	9.7	222.0	171.0	29.8	
台中特一號	8.31	9.18	8.31	9.18	256.3	218.0	30.5	
チンスロブリー	9.15	9.25	9.15	9.25	289.5	—	26.5	

註 i 台中特一號は6月1日播。

ii チンスロブリーは下部より側枝が出て分枝迄の長さは測定しなかつた。

iii ハルマヘラ5号は当地でも採種困難である。

上表に示すが如く、台湾黄麻はいずれも、淡紅皮種より草丈、分枝迄の所謂有効茎長く、1株当粗織維重が多い。但し生育期間は20日~30日長い。

2. 収穫時期と採織量: 台湾黄麻は採織量の多い割

第2表 収穫時期と精織維との関係

品 種	収 穫 日				
	7月30日	8月9日	8月19日	8月29日	9月8日
淡紅皮種	235.0	*296.0	328.0	458.7	464.0
大分青皮種	232.0	*271.0	294.0	439.0	531.0
台中一號	227.0	328.0	537.1	798.0	*929.0
白胭脂	299.0	430.0	562.0	*689.0	*815.0
永靖青皮	259.0	317.8	501.3	*713.8	*814.3
青皮3号	334.0	424.0	582.0	*706.0	*859.6
台中特一號	148.0	266.1	402.0	680.0	*726.2
永靖白露	275.3	378.0	485.0	671.0	*733.0
永靖秋仔	278.0	389.0	*517.3	617.0	784.0
チンスロブリー	174.5	304.4	420.0	585.0	961.9

註 i 表中\*は収穫適期を示す。

ii 収量は坪当収量で gm.

iii チンスロブリーは収穫適期に達せず。

に生育期間が永いが、これを短縮することによつて如何に纖維収量の上に影響するかを調査した。その結果は第2表に示す通りである。

第2表で明かなように、台湾黄麻の収穫を20日前後早めても尙、淡紅皮種、大分青皮種以上の優秀な成

績を収めた。適期収穫を行うことによつて生育日数の延長は免れないが、採織量は著しく増加した。

3. 播種期と採織量：播種の時期と採織量との関係を知るために試験を行つたのであるが、その成績は下記の通りである。

第3表 播種期と精纖維との関係

品 種 播種日	淡 紅 皮 種	大 分 青 皮 種	台 中 一 号	白 烟 脂	永 靖 青 皮	青 皮 三 号	台 中 特 一 号	永 靖 白 露	永 靖 秋 仔	チンスロ ブ リ ー
月 日 4. 2 4	285.0	271.8	997.6	759.0	773.0	865.0	750.0	829.5	464.1	1080.0
5. 9	272.0	226.0	950.0	847.0	830.0	833.0	725.0	810.0	520.0	1110.0
5. 2 4	265.0	161.7	898.0	717.0	609.0	714.7	534.0	574.7	455.2	780.0
6. 1 2	—	—	618.0	600.0	499.0	545.8	445.0	351.7	482.0	—

註 収量は坪当収量で gm.

播種期別に台湾黄麻と在来種との採織量を比較すると、前者は各時期を問わずいずれもその採織量において著しく優れているが、特に4月24日播、5月9日播が各品種共よく、その時期が遅れることによつてこれが収量も漸減している。しかし在来種の4月24日播と、台湾黄麻の各品種の採織量の最も少ない6月12日播と比較しても、後者は遙かに多く著しく優れている。これを山口氏の台北で行つた、4月17日播の台中白胭脂、白露の坪当収量が夫々937gm, 954gmに較べると、当種子島での4月24日播と雖も少しも遜色ないことが認められた。

要するに黄麻栽培は、非能率的な在来種に依存するよりは、台湾黄麻による栽培が極めて有利であるように思惟せられる。

## 結 言

以上の試験結果を取纏めると

1. 台湾黄麻は採織量、纖維の長さの点で従来本邦で広く栽培されている淡紅皮種、大分青皮種より遙かに優れ、約2倍乃至3倍の収量が得られる。

就台中中1号、青皮3号は最も採織量が多い。

## 参 考 文 献

1. 原静：実験麻類栽培新編
2. 永井威三郎：実験作物栽培各論 3
3. 山口尙夫：黄麻新品种ハルマヘラ5号に就て  
台湾総督府農業試験場彙報 206